

長崎県松浦市との職員派遣交流終了レポート

町民課 町民係兼戸籍係兼年金係 主任 舟根 頭

昨年4月1日より1年間長崎県松浦市に職員派遣交流として赴任しておりました舟根頭です。

まずは、1年間の職員派遣交流を無事に終えられたことをご報告いたします。

私自身とてもほっとしているとともに、充実した1年間を過ごすことができ、新鮮な気持ちで福島町へ帰ってくることができました。

「松浦市での1年間」

今回の交流から、1年間という期間での実施となったことを受け、身が引き締まる思いで派遣に臨みました。

実際に1年が経ち、思い返してみると長いようで短いような派遣期間でした。

そして、当然ではあります、1年間という期間が決まっている中での派遣の生活や仕事の難しさも感じました1年でした。

昨年の広報10月号でもお伝えしたとおり、日々の生活は何もかもが新鮮で初めて経験することばかりでした。自分のこれまでの価値観や考え方が覆った感覚であり、自分自身を見つめ直す良い機会となりました。すべてが北海道とは異なる

る環境の中で困惑することばかりでしたが、この経験が自分にとっての財産になると振り返りながら思っています。

赴任して半年間が経過した後の日々は松浦市での生活にも少し慣れ、方言などの言葉は当たり前のようになっていきました。また、北海道との違いをより意識するようになりました。

業務では、水産課にお世話になり、水産業の振興・普及や水産加工品の販売促進などに携わりました。

ふるさと納税のオンラインイベントにおける人気の水産物の返礼品紹介や、テレビ報道番組にも出演した、



ふるさと納税オンラインイベントで水産物を紹介

11月29日(いいふぐの日)の前後に行う学校給食でのトラフグの提供及び小学校でのPRなどが特に担当した業務で印象に残っています。

それ以外にも新型コロナウイルス感染症の補正予算を活用した漁業協同組合での水産加工品の新商品開発、赤潮調査、あらゆる魚種の種苗放流などに関わり多くの経験ができました。

水産業の知識が乏しい私ではありましたが、水産課に所属し、さらには、松浦市という遠く離れた自治体で仕事ができたと誇りに思っています。また、松浦市の魅力ある重要な基幹産業である水産業に携わることができ、とても貴重な

経験ができました。



小学校でトラフグをPR

「松浦市→福島町」

松浦市から福島町へ帰ってくる際は、着任時と同様、自動車とフェリーを利用しました。道中の九州地方の景色や西日本の景色は松浦市へ向かう際とは全く異なった景色に感じ、運転をしながら松浦市での生活や仕事、訪れた場所の景色など様々なことを思い返していました。

また、赴任当初の不安や期待なども思い出しながら懐かしくも名残惜しい気持ちと同時に、福島町に帰ってくることに對してのほっとした気持ちも抱きながらの帰町でした。

「派遣を終えて」

今回の職員派遣交流は、

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の社会情勢下でのものとなり、あらゆる面での制限や困難もありました。大変な時期に派遣となっていましたと思うこともありました。難しい状況の中で松浦市で過ごし、仕事をすることができ、他の自治体での対策などを身近に感じ学び、自分の成長につながったと思っています。1年間の松浦市での職員

派遣交流は、かけがえのないものとなったと思っています。松浦市へ行くことがなかったら、知ることもなかった、感じることもなかったことが非常に多くありました。松浦市役所の職員の皆様、市民の皆様は温かく支えられながら過ごした日々は一生忘れることはないと感じており、感謝しても感謝しきれないと思っています。この「ご恩」と

「ご縁」を大切にし、今後の両市町の交流がより良いものになるための架け橋となり、発展に寄与できるように頑張りたいと思います。

そして、この松浦市での経験を成長の糧とし、福島町に尽力していきたいと思っています。



松浦市の福島町でアサリを放流しました